



センター活用事例

知財・デザイン支援
秋田県よろず支援拠点

02. 》 有限会社 瀬川興業

秋田杉の魅力を発信したい 自社にしかない強みで企業としての再出発へ

焼杉の新しい表現方法で、
安価な部材製造から脱し、
自社だけのオリジナル商品を



社長 瀬川 浩平

有限会社 瀬川興業

〒016-0179

能代市浅内字赤沼216

TEL:090-4479-5032

FAX:0185-57-1033

https://p1dan.hp.peraichi.com/mens_hair_removal_site_p1_1



HP



買い叩かれない、独自の価値を生む

能代市で約70年前に創業した有限会社瀬川興業。創業者は祖父であり、社長の瀬川浩平さんは3代目となる。食品などを入れる化粧箱用として秋田杉を加工した部品を首都圏に向けて納品していたが、コロナ禍で受注が減少。大手の参入もあり、価格を下げざるを得ない状況になった。このままでは事業が成り立たなくなってしまうという危機感を抱いた瀬川さんは、自社にしかない独自の強みとなる商品の開発に着手した。

木材の切り出し方には「^{まきめ}柎目」と「^{いため}板目」がある。柎目は丸太の中心部から外側にかけて放射線状に切り出すため、縮みにくいという特性があるが、切り出せる量が少ないため価格が高い。一方板目は丸太の上から下までをカットできるが、柎目に比べると収縮や反りが起こりやすいというデメリットがあるため価格が安い。この板目を材料とした企画を考えていたが、一時は客観的な意見がないことから行き詰まりを感じていた。そんな瀬川さんに、令和4年、よろず支援拠点との出会いがあり、相談するようになった。



「山人-yamado-」のおせちの重箱に採用された製品。
木目を活かしたシックなデザイン。



木の厚みを調整することで、
温かみを感じられるランプシェードのような使い方もできる。



秋田杉の板をバーナーで炙り、焼色を付ける作業は、
すべて瀬川さんの手加減で色合いが調整される。

焼杉に高級感とデザイン性をプラス

杉を焼いて風合いを出す「焼杉」という加工は日本古来からの技法。瀬川さんはこれに特殊加工を組み合わせ、秋田杉の板目特有の木目を際立たせた『^{よいなみ}宵波』という加工技術を開発した。知財デザイン支援課でアドバイスを受け、木目の立たせ方を調整していった。柎目に比べて割れ、反り、縮みが激しいという欠点も、独自の技術で軽減させることに成功した。

以前から繋がりがあった首都圏の企業の一つで、昨年10月には全国規模の展示会に出品。同課からの情報提供を元にアプローチした、岩手県の宿泊施設「山人-yamado-」との商談がまとまり、早速令和7年のおせち料理の重箱として採用された。高級感を出すことで、高価格帯の需要があると睨んだ読みが当たったといえる。『宵波』の意匠登録についても同課の支援を受け、現在申請中だ。今は複数のサンプル依頼が来て対応している最中だという。瀬川さんは、信頼を得られるよう丁寧に臨んでいきたいと、今後について意気込みをみせた。

▶活用事例 知財・デザイン支援

秋田県よろず支援拠点

特許や商標などの知的財産権にかかる出願や技術ノウハウ等の営業秘密の管理、知的財産のビジネス活用などに関するお悩みや課題の解決を支援します。【お問い合わせ】 知財・デザイン支援課 TEL.018-860-5614
【お問い合わせ】 秋田県よろず支援拠点 TEL.018-860-5605